

一九七七年一月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649

FAX(03)32299-5367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

職場の活動を社会的運動へ、労働法制改悪反対に取り組み

神戸地区労……………2

神戸地区労働総括

自民党崩壊

滝野 忠……………3

—臨時国会が「お休み」に—

俺たちのことは俺たちで決めさせて

小林 義昭……………5

—国労大分闘争団・道北闘争団を訪ねる旅—

日朝国交回復のゆくえ……………9

—続・朝鮮半島情勢—

進むも退くも 大きな困難……………11

—イラクとアメリカ—

読者からのおたより……………14 編集部より……………10

旬刊 社会通信

NO. 1009

二〇〇七年一月一日号

二〇〇七年一月一日発行
(毎月一日・十五日二回発行)

職場の活動を社会的運動へ、労働法制改悪反対に取り組む

神戸地区労働春闘総括

神戸地区春闘は、八月一日単組・地区会議代表者会議を開き春闘総括を行った。

「昨年実績以上」を目標に取り組まれた〇七春闘は、自動車、電機、電力など大手でベア、手当増など賃金改善を達成したが、企業業績に比べると極めて低い水準に抑えられた。「成果配分は一時金で」という経営側の壁を破ることができなかった。

こうしたなかで、昨年から連合内にパート共闘が結成されたが、時間給一〇〇〇円の獲得目標を掲げ、昨年集計を上回る時給一五・四円の引き上げ額を獲得した。また、正社員への登用制度、育児関連制度の導入など均等待遇が進み始めている。

つながり作る「地区労COM。」

神戸地区春闘は一月八日に結成大会を開き、神戸地区労と吉原製油労組で結成した。シンボルマークと合言葉には一〇組合七八点の応募があった。団結ボウリングには九組合一八チームが参加。二〇三月にかけて取り組まれた区長交渉は、全区で取り組まれたが、区側より組合側参加者が少ない区もあり、参加者をどう拡げるかが課題として残った。

加盟組合の次世代を担う役員の交流の場として「地区労COM。」をはじめた。一月二三日、第一回「労働組合を考える」。三月一四日、第二回「労働組合・春闘の歴史」。五月一六日、第三回「働くものの権利」。それぞれ黒崎事務局長、福田副議長、青木議長が問題提起を行い、その後グループに分かれて討論・交流した。

労働法制大改悪、規制緩和柱に闘い

ひようご地域労働運動連絡会主催の春闘討論集会には、県下七地区二一組合から四〇人が参加した。二月七日、労働ルール総破壊NO！ひようご連帯会議主催で「許すな労働ビッグバン2・7学習交流会」が開かれ六七人が参加した。

国鉄分割民営化二〇年の節目として開かれた「国鉄分割民営化から二〇年―民営化社会を問う2・19 兵庫集会」には一八五人。JRの現状や自治体職場で広まる民営化、規制緩和がもたらす実例報告を受け、反対していく運動を強化していこうと確認した。

三月五日、地区春闘役員は、地区春闘加盟・未加盟の四〇職場をまわり激励した。

三月一〇日、「兵庫たたかう仲間の集会―今こそ労働組合！許すな労働法大改悪」が開かれ、一九九人が参加し、労働法制改悪に反対する決意を確認した。

五月一日、「時間どろぼうをやっつけろ」をテーマに第一二回被災地メーデーが開かれ一〇〇〇人が参加した。ミヒヤエル・エンデの『モモ』を題材にしたユニオン劇団による小劇「時間どろぼうをやっつけろ」は好評を博し、五月二九日の許すな労働ビッグバン5・29兵庫集会でも再演された。

今年労働法制改悪、規制緩和に反対する集会が多く取り組まれたことが特徴とな

った。

たたかう組合、広がる争議支援

ユニオン大清道路管理分会は五月三〇日一二時から三六時間ストライキを執行した。未払い賃金の支払いと雇用、労働条件の継承を求めた闘いには、地域の多数の仲間が駆けつけた。有料道路の料金収受員のストライキという前代未聞のストによって、有料道路が無料で通行できるようになったこともあり、マスコミでも大きく取り上げられた。その後も、市道路公社の管理責任を問う諸行動が取り組まれたが、市公社は、雇用関係がないとして交渉に応じようとしめないなど、民間丸投げの入札制度の問題点が明らかにされた。組合員の雇用は守られたが、新会社での雇用は有期の契約社員、有休・夏一時金がないなど、賃金・労働条件が低下、回復のための新会社での取り組みがはじまっている。

六月二七日の対市交渉には五組合一四人が参加した。市の新年度予算に対する説明を受けるとともに対市要求の回答に対して交渉した。

全体として参加組合、参加者が減少しており、労働組合の弱体化を反映する結果となっている。市政要求運動や地域最低賃金など、企業別の組合では取り組みにくい課題を、地区労としてどうつなげていくのか考えていかなければならない。そして、これまで以上に一つ一つの取り組みに対する丁寧な呼びかけと準備が大切になっている。自分たちの利益だけを考える労働組合ではなく、職場の活動を社会的な運動として、みんなで取り組んでいく方向性を持つことが問われている。(神戸地区労)

自 民 党 崩 壊

— 臨時国会が「お休み」に —

安倍「逃亡」取材を終え、一時半にいえにもどった。テレビをかけると「安倍首相辞任」のテロップ、アナウンサーがなきり声を上げている。「なに、コレ」が想い。二時から安倍が記者会見。次の約束を「ゴメン」とキャンセル。その間、自民党代議士たちの茫然自失の映像がくり返される。「自民党崩壊」である。

安倍君の記者会見は二十一分。「小沢さんに会談を拒否された。私はテロとたたかえぬ。新しい総理・総裁でテロとたたかっただけで必要」と得体不明の発言である。安倍君は言葉だけの人だ。最後の会見でも「改革」、「テロ」、「レジーム」、「職責」、「全力」、「反省」との言葉ばかり。中味・内容は一つもない、考える能力ももないアホウでマヌケな人間だったことを天下に示した。こんな人物を自民は大将に選んだ。自民党の墮落である。

三時からは民主・小沢党首が会見した。ここで示されたのは記者諸君の墮落。安倍君に聞くべきことを小沢に聞いて恥としない。だから、小沢は「そんなことは安倍さんに聞いてくれ」と不快感をかくさない。政治家はむろん政治を論ずる者も批判されねばならぬ状況の到来である。安倍の「早退」で政局はどうなるか。民主がねらった

「早期解放」は遠のいた。自民にとって、「解放・総選挙」は送らせる他ない。安倍君がいうように、「特措法」の実現もない。政治は混乱期に入る。

自民党の支持基盤は揺れている。地方議員が減り、業界からの政治献金は細る一方だ。友人が帰宅途中、新宿駅頭で共産党の演説会。それにもすごい人ばかり。ふだん政治に関心ない友人も、その熱気に「足をとめた」と。国民の政治への関心は強く、厳しいということだ。参院での構図は六年変わらない。民主の姿勢はどこにあるのか。

連合を支持基盤 臨時国会が始まった。与野党逆転で注目の参院会派構成は民主・新緑風会・日本一一五、自民八四、公明二一、共産七、社民・護憲連合五、国民新党四、無所属六である。臨時国会の焦点にインド洋上で米軍艦に給油するテロ特措法があげられる。それも重要だ。だがもっと大事なのは、民主党がどんな戦略と戦術で臨時国会に臨もうとしているかだ。

小沢一郎は憲法九条改悪がめざす国家像を「ふつうの国」と言い表したような右派である。民主党は民間政治臨調、21世紀臨調によってつくられた政党だ。「カゼ」が民主の議席を左右した。党に強固な支持基盤がない。前党首の前原君は連合を斬った。小沢は連合にすり寄った。なぜか。

「民主党は基本的に、議員も党そのものも若いので、組織的な基盤をまったく持っていない。その意味において、連合の力は大きかった。

一方、組合の側、勤労者の側からいうと、いまの政治がつづいたなら、労働者の生活向上や権利のためにがんばるといふ組合の存在そのものが軽視されることになるという不安があったのではないか。そうした意識と、この選挙で勝たないと、力で押しまくられてしまうという民主党の危機感があいまって、いい結果がでた」(『連合』九月号、三頁)。民主は連合と「一体化」することで勝った。連合は格差是正、セーフティネットを運動の焦点にすえる。だから、小沢もこれにつづいた。

「地域でいうと大都会と地方の格差、不公平ですが、大都会の中でも不公平、不正が目立ち、格差は開いています。だから、『格差是正』を訴えたわが党に票が入った。」(『民主』九月七日号)。

「自由、自由競争、市場原理を貫くためには、まず大多数の人たちの暮らしを守る『セーフティネット』をきちんと強化しなければいけない。」(同)

こんな小沢の発言に連合は参院選結果について①与党自民党の失政の受け皿として二大政党的状況が定着、②秋の臨時国会では参院第一党として政権運営能力が試される、③緊張感ある関係の構築と「風頼み」でない地域組織の強化が共通の課題と、新たなテーマを設定する。

政局はどう動くか。民主党の立場はすでに明らか、政局はさらに緊迫の度を増す。共産党も動いた。これまでの全選挙区に候補擁立の方針を転換し、比例区への集中・得票率八%以上の選挙区に絞りこむ新方針を決定した。この背景には①二大政党制の定着、②膨大な供託金没収―〇五年衆院選では二二三選挙区、六億六九〇〇万円がある。共産票は自民より民主に向かう。

俺たちのことは俺たちで決めさせて

―国労大分闘争団・道北闘争団を訪ねる旅―

八月上旬に大分の赤峰さん、お盆をはさんで北海道（道北）の闘争団を訪ね、懇親を深めてきた。

私自身は二年ぶりにお互いの元気を祝って一杯飲んで、ともに少しでも元気になるう、大谷（留萌）さんの仏前に線香をあげて、好きな溪流釣りを音威子府の仲間から案内してもらおう、と「遊び」半分の旅だった。

国労大分闘争団・赤峰正俊さん―鮎（あゆ）つれず

八月四日～七日まで大分県の赤峰正俊さん（一人闘争団）の所に社会通信の滝野さんと鮎釣りに出かけた。

鮎釣りは、溪流釣り以上に腕の上手下手がもろに出るといわれている（小林さんは溪流釣りの名手。滝野はその弟子）。「引き味」と釣りの難しさに一度はまると病み付きになるとか、私はお金と暇がかかるのでできるだけ近づかないようにしてきた。鮎の「虜（とりこ）」にならないように、うまくいって一尾でも釣ればよい、三年振りに彼の握る寿司で、彼を支援している県・市議・地元の方々と一杯を、と出発した。

案の定テレビで見るとは大違い。台風後の増水で釣れなかったこともあるが、彼が付きつきりで指導してくれているにもかかわらず、ラインの方向と正反対に罟（おとり）の鮎が足下に来ているやら、さっぱり釣りにならず。やはり難しい。三〇cm近い鮎が釣れてしまい鮎の「虜」になった滝野さんと違い、「虜（とりこ）」にならずに済みそうだ。

赤峰さんの鮎釣りの腕はたいしたものだ。毎年大物を送ってくれる。北海道から帰るとわざわざお盆に彼の釣りキチ仲間と釣った、彼の鮎二〇尾近くが届いていた。私の後援会役員・熱心な応援者が毎年鮎の塩焼きを楽しみにしている。留萌・音威子府闘争団も相伴したことがある。

そんな事情から夜の部が中心になった。地元の県・市議、組合の仲間が彼の家に集まり、交流会となる。それも国鉄闘争に非協力的いえる組合の大幹部まで集まってくる。この人たちも鮎釣りの同士のらしい。

彼は毎年、地元で趙博、李政美の在日歌手のコンサートや神田香織の講談などを国鉄闘争、平和運動と合わせて行っている。住んでいる豊後大野市は、〇五年に七町村合併しても四万人そこそこの市である。新潟の南北魚沼地域のような所である。そんな地で幅広い運動や人脈を持っていることに、いつも感心させられる。

国労旭川地本闘争団との交流

▽一四日（火）―フェリー―で出発

二三時三〇分にフェリーに乗り込み、旅の無事を祈念して乾杯。若井浩・小林義昭・柴犬ハナ（小林さんちの愛犬）の二名一匹のおかしなご一行の出発だ。

▽一五日（水）―木山邸にて

昼食は「北海道食材のバイキング」の呼び込みにつられ二名で食堂。出ているのはコロッケに小さなハンバーグなどなど、北海道とはほど遠い既製品のみ、お代わり無し。

一七時過ぎに苫小牧東港に到着、札幌の木山邸に。借家はボロ屋を予想していたが（稚内の国鉄官舎はとかくひどかった、犬小屋の方が立派くらい）、「立派」なもの。木山さん家族と松里さんで夕食兼ねて花香ちゃん（はなこ・長女）要望のファミレスと回転寿司に、どこもお盆の一五日で長蛇の列、結局そば屋さんに。初日から「ソバを肴」に「サッポロクラシック」で乾杯。男どもは松里さんの従姉妹がすすきでやっているスナックに（ここも二年振り）、とりの「刃傷松の廊下」で帰宅。

▽一六日（木）―木山邸から留萌闘争団

朝食は、木山さんが実家（増毛で漁師と民宿）から頂いてきた黒ソイ・平目、イカの刺身と平目の煮付け、さつそく、若井事務局員お別れのビール。

松里さんの奥さんとおばあさんの顔を見に松里邸により、札幌出発は昼近く。オロロンライン（日本海側）を走って一六時過ぎに留萌闘争団。

大熊事務局長から案内していただき大谷さんのアパートで、仏前に線香をあげる。九月の手術から約半年間、壮絶なガンとの闘い、二十数年の闘いの中で何人の仲間が亡くなっただろうか、JRに採用されていれば大半の方が命を失わないですんだものを。そして、仲間同士の「対立」が作られ、どんなに無念な想いで息をひきとつたであろうか。救いは友枝さんが痛手から立ち直り、職場復帰と元気を取り戻したこと。二匹のミニチュアダックスフンドが癒しているのだろう。

夜はいつもの「將軍」で葛西団長、松田副団長、友枝さんら七名で再会を祝って乾杯。ここでも大谷さんの話、酔いも回り「四者四団体」問題を俎上にあげず（余り酒がまわつての話はエキサイトするだけで生産的でない）。

▽一七日（金）―留萌から稚内闘争団、音威子府

留萌闘争団に挨拶に。友枝さんから「三升漬け」（ピリ辛・薬味かご飯のおかず）をいただく、たいへん美味しい。レシピを聞いて挑戦中、こうご期待を（?）。

大風力発電群を見ながらコンビニ弁当で昼食。

稚内闘争団で万城目団長、藤谷市議、鳴海さん、上出さんと挨拶。一夜千しの話、世間話を通りし、一時間少しで音威子府に向かう。

途中、中川町で温泉に入る。新潟の公共の湯と違いガラ空である。これだけの施設で平日とはいえガラ空では大変だろう。新潟的な疑問もよく考えてみれば、二千や三千の自治体ごとに温泉を作っていれば、こんな数で不思議がないと納得（隣の音威子府村も一千名を切ったが、村営の温泉があった・現三セク）。いい温泉だ。一七時過ぎになると温泉上がりにもかかわらず涼しくらい、新潟の九月上中旬の夕暮れ、道北の地を実感する。

音威子府闘争団事務所に一九時過ぎに到着。物販で馴染みの高橋さん、泉谷・小西さんが盆踊りの仮装大会の仕度をしながら気付け葉、我々も相伴にあずかる。

盆踊り会場に、ハナは次々と子どもたちに囲まれ、引きずり回され、少しとまどい気味。いつもより暖かいというものの、かき氷の出店前(どこの労組か分からないが)はお客がパラパラ、かき氷より爛酒の方が売れそう。国労のつくね焼きもけっこう遅くまで残っていた(売れ筋の組合は早めに店終)。来年参加できれば新潟の酒で出店でも、けっこうお客がつくのでは? 今年は仮装個人の部で常勝の藤保おばあちゃん(文夫さんの母)が優勝から外れた。その後、地区労事務所総括会議(懇親会)、挨拶をする。

組合事務所で二名プラス一匹宿泊

▽一八日(土)―サクラマスが釣れた!?

朝食は関野智子さんの(物販の関野さんの奥さん)が持ってきてくれた。小西さんが採ったモタセで若井さんがみそ汁を作る。

小林は、小西・高橋さんと美深川に釣りに。大きな淵には五〇cmを超すアメマス(イワナの降海型)やサクラマスが何匹も悠々と泳いでいる。こんな風景は初めて、これが見られただけでも来た甲斐があった。そして最後のミミズになんと五〇・六〇cmのサクラマスがヒット、魚はびくとも動かず、三〇分間竿は満月のように曲がったきり、姿が見えてやり取り仕出すが最後プツリ。もともとサクラを考えた仕掛けでない〇・六号、やり取りの時にすれた箇所から切れた。この仕掛けでサクラが捕れたとなれば、「ギネスもの」? 快い疲労感と充実感。

若井さんは、崎野さんと枝幸温泉に(オホーツク海側)。ゆっくり温泉に入ってビールも「議論」も盛り上がったようだ。

夜は恒例の木工工場でのバーベキュー。金児団長、泉谷・杉山・関野・小西・高橋・千葉さんなど気心の知れた面々。ジンギスカンはもちろん、タラバ、ツブ、ジャガイモ、ボタンエビの刺身、生ビールに焼酎。小林は今日の「釣果」と快い疲れに美味しくビールをいただき、若井さんはいつものようにビールから焼酎に、メートル上がりっぱなしで「四者・四団体」、闘い方の「活発な議論」に。団の一人から言われた「俺たちのことは俺たちで決定させて」が心に残った。

いつものことながら、音威子府(他の団でもそうだが)に来て、特別な意見交換をするのでもなく、一日魚を釣って、みんなと焼き肉を食べながら酒を飲む、今年もまたみんなに元気で会えたな、道北の旅も終わりに近づいたな、何か田舎の小中学の同級生に久しぶりに会うような、つい感傷的になる。

▽一九日(日)―音威子府から名寄闘争団、網走

朝食は関野智子さん、みそ汁を金児団長が作る。彼はなかなか器用な人で、前日も一夜干しのニシンと竹の子で美味しい煮物を作ってくれた。智子さん(音威子府ソバでパート)が村名物の音威子府ソバの天ぷらソバを作ってくれた。生麺で市販されていないとのことであるが、私の口には合う。強烈な個性の音威子府ソバが好きな方に

は、物足りないだろう。いつもの杉山智子さんに会えなかった（彼の身内に不幸があり）。名残を惜しみつつ闘争団前で記念写真。

名寄闘争団で西原団長と一時間懇談。お互いが団塊の世代、普通であればそろそろ現役幕引き、話題も共通する。西原さんは「国鉄闘争で職場復帰を勝ち取るだけでなく、我々がどう次の闘いに引き継ぐか、踏みだすかが問われている」といわれた。相変わらず実直な方だ。

興部を経由してサロベツ湖、網走湖脇を走って網走の鈴木孝さんの家に向かう。彼とは三年振りの再会である。泊めていただくのは淑子さん（奥さん）の実家、温厚なご両親でミニチアダックスフンドを飼われており、聞けば私の妹の連れ合いと同じく左官職人から工務店をやっていたとのこと、親近感が深まる。鈴木さんは淑子さんと高校時代からの付き合で、彼女の家に遊びに行っていたようだ。

網走の街に鈴木さん、美幌闘争団の高橋さん、稚内闘争団の上野さん（個人自活・網走市で東京農大生相手に下宿をしている）の五名でくり出した。郷土料理店でオオカミ魚（水族館にいる怖そうな）の刺身やおホーツク海の幸を堪能する。網走市の水道は美味しい。

▽二〇日（月）―菅原さん、走行距離一五〇〇km

朝食の初サンマに感激。新潟ではまだ高く手が出なかった。この地は既に秋に入っている。短い秋からあつという間に冬を迎えるのだろう。鈴木さんは仕事に、美幌の高橋さんからホツカイシマエビのボイルを届けていただき、茹キビをお土産に札幌にむけて出発。

カーナビの指示に従い一五〇〇mを越える峠を下ると見たことのある風景、何と層雲峡經由の道を走っていた。

ちようど、お昼に菅原さんの家に着いた。菅原さんは、お鮪をとって、カボチャやナスの料理を用意して待っていて下さった。前回も手作りの弁当をご馳走になった。早速いただきながら、一週間の報告をする。国労本部から地元に戻られて二〇年くらいになられるのだろうか、厳しい中にもホットする大先輩である。ごちそうさま・ありがとうございました。

一九時三〇分、苫小牧東港初のフェリーに乗り込む。同室者が子ども連れの二家族、小学の先生卒業の若井さんと四才になる双子の外孫が頻繁に遊びに来ている我が家、それぞれがつまみを出しながら宴会となる。ホツカイシマエビは早速みんなの口に、北海道でもなかなか口に入らないらしい。

一人は、稚内駅のすぐ近くにあるお寺の住職とか、しかも出雲崎町出身で家族そろって実家に帰る途中とか、今度を稚内に泊まった時に顔を出す約束をする。

二一日一五時新潟港到着。二人と一匹、今年も道北の旅は無事に終了。走行距離は思いの外少なく一五〇〇kmほど、闘争団を訪ね、団と団の間をただひたすら走るだけ。闘争団の皆さんにわがままと迷惑をかけ出して八年、こうした「行軍」もそろそろきつくなってきた。

闘いはじまり二十年―ラストスパートに全力

大分・道北闘争団の仲間と二年振りの再会、再会を祝つての旅であった。あまり運動のことは触れることはなかった。二〇年を越える国鉄闘争も今大きな節目を迎えている。三裁判が結審・判決を迎える。我々の主体や思いとは別に司法の場で一定の判断が下される。

そして、会った人々の間でも意見の相違もみられる。職場復帰の可能性が無くなったが(定年退職を迎えた人)年金の出る人、年金がほとんどでない人(若く職場復帰が出来るが、組織的自活体制で年金をほとんどかけていなかった人)などなど、老後の人生設計も今後の闘争方針も千差万別と感ずる。

どちらがどうということもなく、私を含めてそれぞれ人生の第三コーナ、年金を含めて老後を考えざるを得ない。その中で一人ひとりが家族を含めて団の中で自分の生き方・老後のことを忌憚なく話し合う以外ないと思う。

とにかく三百数名の納得いく闘い方、一人ひとりの人生を見据えた方針が必要ではないだろうか。「最終判断」を下すのは当事者自身であり、私は出された結論を支持する。

それぞれが少しでも納得いく解決水準を引き出すために、闘争団も支援の我々もラストスパートに全力を上げなければならぬと感じる。
(小林 義昭)

日朝国交回復のゆくえ

― 続・朝鮮半島情勢 ―

朝鮮半島の非核化と平和をめざす六ヶ国協議は、①核施設の稼働停止・封印、②IAEA(国際原子力機関)査察という「初期の段階」の諸措置を完了し、①核施設・核計画の申告、②核施設の無能力化を目的とする「次の段階の措置」に移行した。

六ヶ国協議の大きな流れが明らかとなった。第一は「核問題優先」、第二は北朝鮮への支援体制強化、第三は①経済・エネルギー協力、②朝鮮半島の非核化、③北東アジアの平和・安全メカニズム、④米朝国交正常化、⑤日朝国交正常化の五つの作業部会で「次の段階の措置」をさらに具体化することだ。五つの部会の動向では米朝部会がもつとも重要だ。米国と北朝鮮には国交がない。さらに米国は北朝鮮を「テロ支援国家」とし経済的・政治的封じ込めの政策を実行する。北朝鮮は敵視政策解除「テロ支援国家」を求める。

米朝国交正常化部会は友好裡におこなわれたようだ。両国代表はにこやかに会議の「成果」を報告し合った。会議から一日たった九月三日、北朝鮮は(米国は)「テロ指定国家解除」と報じた。それにたいし米国は「そうした決定はさしせまったものではない」としながら、①進展のための基礎がととのった、②北朝鮮が今後とる措置しだいと融和的である。

「今後とる措置」とは①核施設の無能力化、②核計画の申告で、米国は①寧辺の三

施設の無能力化先行容認、②高濃縮ウラン計画も申告対象との立場である。米朝会談はこの二点を大きな争点としながら、①テロ支援国家措置の解除、②敵対国通商法による制裁停止、③休戦協定（一九五三年）の新たな協定、つまり終戦（平和）協定、④国交回復（外交公館の開設）を視野に入れていることは確実だ。

日朝国交正常化部会が開かれた（九月五く六日）のは、こんな情勢のもとである。休戦協定は米・中・朝三国が調印、韓国は休戦に反対し調印していない。したがって、日本は休戦協定問題に口を出す条件はない。日本は北朝鮮と国交がない。もともと「近い」国を、もつとも「遠い」国としつづけた。さらに、日本の干渉、介入策は、北朝鮮からすれば日本は「敵対国」と映る。「らち」問題はこうした不幸な歴史から生まれた不幸な事件である。

会議は「決裂」とはならなかった。北朝鮮は「対話優先」を実践した。日本は「らち」「歴史」問題で実態論議を展開した。北朝鮮は大きな流れの中で日本の孤立化をはかり、日本は追いていかれまいと米国に「軽拳」を戒めるとの構図である。この構図は今しばらく続く。

六ヶ国協議はこれからどうなるか。五つの部会の話し合いが終わった。これから①六者協議全体会議、②六者外相会議、そして豪雨で延期された③南北首脳会議が開かれる。日程が決まっているのは南北首脳会議の十月二日から四日である。首脳会談は核問題が「解決」したのであるから、休戦協定の「終戦協定」化、さらに国交回復が議題となる可能性が強い。朝鮮半島の平和プロセスの直接当事者は南北朝鮮と中・米、北東アジアの安保プロセスも同じである。とすれば会議全体は朝鮮半島の二つの国と米国、そして仲介人の中国で進められることになる。最終的な目標である朝鮮半島の和平協議は①休戦協定を平和協定に、②米と北の国交回復へのプロセスとなる。

ちなみに北朝鮮水害への人道援助を①国連、②中国、③韓国、④米国は表明するばかりかすでに実施している。日本は相も変わらず「敵視」政策をつづけている。

◇ 編集部 だより ◇

▽六ヶ国協議進展の一方、アフガン、イラク、中東地域の混乱はいや増すばかり。旧社会主義諸国はグジャグジャで、そこに米国が手を突っ込む。NATOの東方進出であり米国の旧東欧圏でのミサイル防衛網建設である。ロシアと米国の対立、そしてイランへの国際包囲網づくりである。

▽エネルギーを武器に帝国主義を展開する中国、防衛に走る米国。新たな帝国主義外交の始まりである。その背景に大恐慌の可能性も見えてきた。世界の株価は上下動が激しくなった。

▽政権維持に自信を失った安倍君は、慶応病院に雲隠れ。福田が勝った。彼は政治家というより事務官のようだ。彼の主張に熱はない。派閥の親方の要求にどう対処するか。私の関心事だ。

▽福田のスローガンは「自立と共生」、小沢の主張と同じであるらしい。保守二党制はこうしてさらに進み、選挙での選択肢は細るばかり。この党の課題はともに支持基盤の強化。民主は「連合とともに」が当面の方策だが、他の領域でどうするか。これも私の関心事。

▽われらの方策はなにか。自、民を徹底的に批判し、下から組織をつくる。拠点づくり集中し、地方議会に力をつくる。国会に議席のない党派の進む道である。

◇ 「国鉄まつり」 十月十四日（日） 午前十時より 亀戸中央公園

進むも退くも 大きな困難

ー イラクとアメリカ ー

イラクの内戦は拡大の一端だ。宗派、民族・部族、反米・親米の武装勢力が、考えられるあらゆる戦術を駆使し戦闘する。その隙間でギャング、テロリストが暗躍する。イラクの状況はテロというより内戦に入った。

内戦を納めようと米軍一六万人が駐留する。戦死者はふえる一方で毎日のように星条旗で包まれた棺が空軍基地に送られる。米国内でえん戦気分は拡大し、ブッシュ支持率は三〇%を割り込んでいる。イラクでは米軍兵士は「戦争目的」を失った。

イラクばかりでなく米国内でも政治は分裂した。撤退を求める声は共和・民主両党問わず大きくなった。イラク政府への不満も強くなり、マリキ首相包囲網すらつくられ始めた。米軍一六万は撤退できるか。撤退したあとイラクはどうなるか。この点に焦点をあてた興味深いリポートが発表された。原題は「ハワ・ト・ウオーク・アウェイいかにして去るか」(TIME 二〇〇七年七月三〇日付 by Anthony Suan)。以下はその抜粋である。

米国内閣の選択肢

アメリカがイラクで次に何をなすべきかをめぐって大枠二つの考えがある。そしておそらく、どちらも誤っている。

一つ目は、多くの民主党議員に代表されるもので、アメリカが去るべきときはとつとつ過ぎてしまったという主張である。今なしている最上の手はできるだけ早く米軍は撤退し、イラク人にその運命を自ら握らせ、近隣の石油資源豊富な湾岸諸国を脇へ退かせることである。これによると、イラク撤退はアルカイダの支持獲得の最大の名目となっている、中東における米軍の巨大なプレゼンスを解消することができる。そして、現在の一月一〇〇億ドルの戦費を節約し、陸・海軍の共倒れを防ぐことができる。

二つ目は、行き着くところまで戦闘を継続するのが唯一の可能な道というものである。ブッシュ政権当局者の論旨は、イラクからの撤退は大虐殺を招き、アルカイダとイランに大勝利をもたらし、ペルシャ湾を不安定化させ、全世界のテロリストにアメリカとその同盟国への攻撃に道をひらくというものである。このような危険に対処するために、ホワイトハウスとその擁護者は、中東の混沌の中から民主主義が生まれるまでアメリカはイラクに止まるしかない、と主張している。このプロジェクトは彼らも公然と認めるように、一世代は要する課題である。

アメリカがイラクに侵略して (invaded) 四年たった今、どちらのアプローチも五十歩百歩である。戦争への支持はどん底に落ち (cratered)、アメリカ人民は軍隊のアメリカ帰還を望んでいる。が、彼らはそれがすぐには起きないことは分かっている。アメリカが去るやいなや、イラクの混乱が増し暴力が渦巻くことを理解しているからだ。彼らは、アメリカが中東においては、あったにしろ、ほんの少しの影響しか持っていないことを学んだ。そして個人の戦争観や戦争の起源がどうであろうと、事態は思うような方向にはいかないということも知った。

撤退はどのようなものになるのか

現実には、速やかに退出するのは難しい。ソ連軍がアフガニスタンから一二万人の兵員を撤退させるのに九ヶ月かかった。彼らは隣接地に移るだけだったのである。しかもその過程で五〇〇人以上が生命を失った。一〇個の戦闘旅団(約三万人)を武器と支援人員とともに撤退させるには少なくとも一〇ヶ月はかかるとペンタゴン当局者は語る。そしてこれは全体のほんの一部にすぎない。兵士たちが荷造りを始めれば、おそらく脱出の先頭に立ちたがる民間人がいる。その中には五万人の民間米国人と、米国が去ったときに保護を必要とする数万人のイラク人が含まれる。

撤退をさらに遅らせるものは、米国が持ち去らねばならないか、でなければ破壊しなくてはならない膨大な物資の存在である。軍当局者が議会で最近発言したところによると、現在イラクには、四万五〇〇〇台の地上戦闘車(米軍全戦車在庫のかなりの部分)とヘリコプター、装甲兵員輸送車、トラック、*humvees* が配備されている。それらは、一五の基地と三八の物資集積所、一八の燃料供給センター、そして一〇の前線薬集積場に広がっている。これらが一党派その他の手に入らないように、自国に持ち帰るか破壊しなければならぬ。

ペンタゴン当局者は、修理中の武器はもちろんのこと、大食堂、オフィスビル、自動販売機、家具、移動式トイレ、コンピュータ、クリップ、大量の宿泊施設を持ち去らねばならない。一九九一年の湾岸戦争でサウジアラビアへの莫大な物資の搬入を指揮したときの陸軍の兵端責任者だったウィリアム(ガス)パゴニスは、何度も見過ごされている障害を指摘している。すなわち陸軍の装備が米国に再搬入されるときは、パゴニスが言うには「鶏その他を大量に絶滅させる」、いかなる細菌も付着してはならないと、米国の農務検疫官は主張するのである。

米軍が撤退すると決定するや、戦場に残される部隊の危険は高まる。そして、撤退スピードが早ければ早いほど、危険度は高まるのである。出発する部隊はその任務の焦点を失い、格好の目標になるとパゴニスは言う。地方民兵は自分たちの勇気を試すために、撤退する縦隊に攻撃をしかけがちである。「陰惨なものとなるう」と退役陸軍大将のバリー・マツカフレイは言う。彼はそれでも部分撤退を支持している。「燃やすか爆破しなければ多くの装備が、イラク人の手に帰すであろう。海岸線に至るまで、攻撃にさらされることになるう。イラク人は途中いたるところで、『我々はバラの花弁を投げることも出来るし、「奴ら」を撃つことも出来る。撃てば彼らも撃ち返すだろう』と語ることになるう」。即時的撤退ではなく漸次的撤退というのは、賢明な方法ということではなく、唯一の方途なのだ。

イラク人の運命

米軍の軍事プレゼンスの削減は、おそらく一つの鮮明な便益を生み出す。アメリカ人犠牲者の減少である。しかし、アメリカ人の死者が減るにつれ、イラク人のそれは確実に膨れ上がるという冷酷な現実がある。米軍が撤退するとイラク人の犠牲者がどれほどになるかは様々な説がある、しかし現在の一月約千人超という数から劇的に跳ね上がるだろうということではほぼ一致している。ルワンダのようにはならないだろ

う。そこでは一九九四年、六ヶ月間に五〇万人以上が虐殺された。しかし、一九九二年から九五五年のあいだに、二万五〇〇〇人が殺された旧ユーゴスラビアのようになる可能性はある。

以下の点については異論はない。アメリカ軍の撤退後、バグダッドはシリア派民兵によってすぐに占拠される。全域がアメリカの軍事作戦によって鎮静化されているからである。すでに、独立を気取る充分に装備された治安部隊は、シリア派指導者の指令を受けた民兵によってずたずたにされている。暗殺者集団によるスンニ派の殺害は増えるだろう。ますます嵩じる暴力に対して、スンニ派の反乱者とサダム・フセイン前体制下の構成員は彼ら得意の武器で報復するだろう。シリア派居住地区の市場や寺院、警察署、新兵集積所への車爆弾攻撃である。

民兵の突進戦略の一つの結果として、アメリカはスンニ派の部族指導者に、アルカイダとの結びつきを絶つということを引き換えに、ときには武器まで渡して安全確保に向けた多大な責任を譲渡してきた。これは米軍が近くにいれば、管理可能なりリスクである。ただし、米軍が出て行けば、乾いた森の火口となる。派閥同士の大量虐殺ばかりか、まぎれもない無政府状態が出現する恐れがある。「われわれの直近の危機は」、あるアラブの外交官高官は言う。「完全撤退のシグナルを送ることは、それぞれ自身の信条を推進することができる、すべての党派、すべての政治グループの一部の構分子を鼓舞することになるといふことだ。これは単にシリア派對スンニ派に止まらず、それぞれのコミュニティ内の戦争となる。最悪の事態はイラクのソマリア化である」。

専門家の中には、短期の暴力の爆発の後、イラク人は国家のコントロールを取り戻すという者もいる。そこで、米軍の撤退時期を現時点で設定し、米軍撤退がいかなる形であろうと真空状態をつくりだす前に、イラク人に責任をもたせ、権力を行使できるようにすべきだと考える者もでてきている。しかし、イラクの中心部が脆弱とはいえない崩れず、イラク周辺国が安定に向けた影響力を発揮するという兆候はほとんどない。

最悪のシナリオ

最悪のシナリオはイラクの戦争が周辺国を巻き込んだ地域紛争に発展することである。イラン政府が何者にも邪魔されずにシリア派を援助しているように、サウジアラビアやヨルダン、シリアといった諸国内のスンニ派シンパはシリア派に對抗して、イラク国内の親戚に武器と現金を送り込むだろう。「アイルランドであれパレスチナであれ我々が見てきたことは」と、戦略・国際関係研究センターの中東部長のジョン・オルターマンは言う。「援助する者が国外にいるとき、殺人を遂行する代理人が国内にあり続けるということだ。」

無思慮な米軍撤退が連鎖反応を引き起こし、世界の石油輸出国トップ十五に入るイランとイラク、サウジアラビアの関係をさらに不安定化させ、ひいては戦争につながるということも容易に考えられる。スンニ派を支持するサウジを嫌うシリア派は(サウジ) 王国内で報復するかもしれないし、スンニ派もイラン内で戦闘を行うかもしれ

ない。「地域戦争につながりかねない宗派闘争が起こるかもしれない」と、中立系のシンクタンクである新アメリカ安全保障センター総裁のミケル・フロノイは言う。「そこにいたれば、進もうとは思ってもみなかつた道を見出すことになる」。

現在の米軍が宗派同士の殺し合いを抑制できなかったことを見れば、削減された米軍がスンニ派とシーア派の殺戮を止めようと期待するのは不合理なことである。しかし、かなり小さな多弾頭ミサイルの弾着範囲ではあっても、米軍は地上では十分な火力を保持し、そして空域では他国が侵入するのを防ぐだろう。米軍の大半が撤退しても、現在米軍が行っているような内戦の取締りとはいかなくても、内戦をこれ以上広げないために、ある程度の軍事プレゼンスが必要である。マッカフリーらはさしあたり、米軍の削減は半分を超えないようにすべきだと主張している。「現大統領の任期終了時に一〇旅団をイラクに残しておけば」——今日の二〇旅団から——外部からの武器搬入を阻止するに「充分な軍事力を保持しうる」。

(訳・HK)

◇ 読者からのおたより ◇

リハビリ中 ごぶさたしております。毎日が暑い！足の釘抜きも終わり、リハビリに励んでいますよ！今後の課題は総合労働契約を締結させない闘いを職場からどう作るかです。職場の仲間とがんばります。

(神奈川・A)

編集部より 八月九日からフル回転だったクレーマーもようやくお休みです。
運転士、二人が国労加入 運転職場でJR東労組から六月三〇日、七月一日付で、連日国労加入があった。支部(国労新橋)で、それも運転士からの加入ははじめてである。日常の分会活動が大きな成果を生んだのではないか。加入した二人の青年(二十八歳と二十六歳)は、仕事・職場のことを真剣に考え、国労への加入を決断した。多くの職場でこの二人に続いて組織拡大を勝ち取る。

(国労新橋)

一千号おめでとう 一千号達成、本当におめでとうございます。小生は病院で寝ておりました。これからも頑張ってください。

(東京・H)

編集部より 「安倍晋三は迷路を脱け出せるか」。興味をもって読了。

「健康」「生きる」 本年三月をもちまして郵政生活を卒業いたしました。今後の人生スタイルは個をベースにした社会との関係を結んで行く事とし、「健康」「生きる」事をテーマにして、妻と二人三脚で精一杯生きる事とします。立場、地位、権力、人間ってなんでしょう。そして組織とは。今その事を問うています。

(神戸・O)

編集部より あなたの「ツブヤキ」わかるような気がします。「個人と組織」ということ…。
みなさんどう思う 郵便局ではユーメイトが三十人も増える。時給は七百八十円から九百円、採用年齢は四十歳から六十歳までに拡大する。民営化で商品が変更になっても研修がない。倉庫に入るには二人でしか入れないし、カギ借りるには記名と印鑑がいる。席をなれる時は、机上の書類は紙でおおう。NTTでは半日休暇がある。午前は十三時十五分までが半日、午後は十三時十五分から半日になる。だから、これは十二時から十三時の昼休みをはさんでいる。

(鹿児島・K)

編集部より 企業は性善説でなく性悪説をとる。社員を信用しないんだ。こんな会社に「忠誠心」わきませんよね。NTT流トヨタ生産方式だ。剰余価値をしばらくとることしか考えていない。

あつという間の四年 『仲間との連帯』No.1を発行したのが、二〇〇三年五月三〇日。あつという間に四年以上過ぎました。二〇〇三年は(平成一五年)、私は七八歳の時でしたので、今はもう八二歳、家族からは『あんた もう二く三年で終わりよ』と言われます。なのに、仲間の方々から素敵な通信が沢山寄せられますので仲間の気持ちを、仲間に伝えるのが楽しくて、また本号を発行しました。人間の社会を、金や物や組織を中心に考えるのではなく、人間として、連帯し合う気持ちを中心とした社会を求めて、心をつなぎながら進みましょう。

(神奈川・K)